

大相模地区の「新編武蔵風土記稿」

加藤幸一

雄山閣発行の「新編武蔵風土記稿」をもとに作成した。

() 内の文字及び※の文章は、加藤が加筆した。

○西方村

つけたりもちぞえしんでん
附持添新田

※八条領に属する。

※持添新田とは、「反高はあるが新田村居の農民が不在の土地」

(秋葉一男氏『見沼の歴史』の見解より)

西方村は大相模郷に属す、古へは、東方・見田方・当村(西方)を合せて大相模郷と云ひしが、其後、分郷のとき、当所は其郷中の西に当れるをもて、かく名付くと、村内大聖寺

不動の来由に、此郷の名義をの(載)す、且当国(武蔵国)七党野与の系族八条・金重・

渋江氏の人多く此辺につどひ、今も村名に(これらの名前が付けられて)のこれり、され

ば其系図にのせたる、大相模能高及び能忠などいへるは、当所に住し、在名(住んでいる

地名)を称せしこと知るべし、かたがた以旧地(昔からの古い地名)なることは論ずるに

及ばず、江戸よりの行程五里余、民家百六十、東は東方村、西は瓦曾根村、南は登戸村、

北は小林村に接せり、日光街道、村の西界を貫り、東西十五町、南北十八町許、(家康の)

御入国(天正十八年、一五九〇年)以来御料所なりしを、寛文十一年(一六七二)村内を裂

て萬年佐左衛門に賜はり、残りし所を延宝七年(一六七九)、堀田筑前守に賜ひしが、元禄

十一年(一六九八)又御料所に復せり、よりて今、御料と(萬年)佐左衛門が知行なり、検

地は寛永四年(一六二七)興津角左衛門、鈴木藤兵衛糺せり(改め直す)、外に、享保十六

年（一七三二）・同（享保）十八年の二度、伊奈半左衛門、寛延二年（一七四九）吉田源之

助、明和七年（一七七〇）遠藤兵右衛門が検地せし新田あり、当村の持添なり、

※ここである「伊奈半左衛門」は、伊奈半左衛門忠順（ただのぶ）の跡を継いだ伊奈半左衛門忠達（ただみち）を指すのであろう。

高札場 村の中程にあり、

小名 三谷（山野）組 藤塚組 田向組 西方組 松土手

※松土手は葛西用水の取水口の北の川の中の中洲に松塚をともなつてあつた。

元荒川 西の方を流る、隣村瓦曾根村溜井の続きにて、則こゝに石堰を設く、是は延宝六年

（二六七八）公より築立られ、八条・淵江・越ヶ谷・新方・岩槻・谷古田・西葛西

七ヶ領の預る所なり、又此溜井に設くる塚十六ヶ所、夫より引分つ、用水・悪水合

二十一ヶ所、其各渠に架する橋五十三ヶ所あり、この川に河岸場あり、安永元年（一七

七二）願ひ上て河岸場となせり、当村此水元ゆへ久霖暴雨の時は、第一に水災を

被れど、組合の輩は己が村々の事のみを奔走し来りて、力を助くる者なく、又旱魃の

時は領中より交る交る来りて水の分量をなし（調節し）、其村々へ引漑ぐゆへ、聊か他

村より多く引用ゆることあたはず、誠に近郷比ひ（比比、みな同じ状態にあるさま）ま

れなる難渋の村なり、よりに常に明俵一万余、繩三千房をたくはへ、其備へとなす、

享保十二年（一七二六）、公へ願上、小屋を結び、定杭をたて、事ある時は役人來

りて村民を指摩（指図）の意味か）し、其難を救はしむと云、尚瓦曾根村溜井の条あ

はせ見るべきなり、

山王社

村の鎮守なり、別当東光院本山修験、葛飾郡幸手不動院の配下なり、当社元大社にて

六佚（「六人の世捨て人」という意味か）の僧ありしと云（山王社は配下に六ヶ寺を

有していた）、東光院は即其一にて、余の五寺は利生院・神王院・安樂院・薬王寺

（薬王院の誤りか）・観音寺是なり、利生院は今大聖寺の塔頭（大寺院の境内にある

小寺院、大寺院に所属し脇寺ともいう）にて、神王院は廃し、其余の三寺（安樂院・

薬王寺〔院〕・観音寺）は東方村にこれあり、

※山王社は現在の日枝神社をさし、山王社の別当寺の東光院は日枝神社の東隣
一帯の空地あたりにあった。東方村の南馬場（ばば）自治会館あたりは薬王院
これより北方八十メートル先にある墓地は安樂院の跡地である。東方村の観
音寺は大成町一―二二六二の観音寺である。西方村の利生院は現在の相模町
六丁目の十一面観音堂あたりである。その裏側北方の地に安養院があった。

○八幡社 東光院の持、

不動堂

縁起の略に、往古、良弁僧正相州大山開闢の時、面（「地面」か）のあたり、不動

の靈容を拝し、其尊像を刻まんとて、先其木の根本をもて一刀三礼し、一像を彫刻し、

是を大山根本不動と名付く、大聖寺開山の僧（となる）不動坊といへる者、夢の告に任

せ、彼像（「大山根本不動」の像）を負出で当所に来りけるが、俄に笈（修験者や行脚

僧などが背中に負う入れ物で、四隅に脚がついて戸により開閉する箱）重くなりければ、

是こそ有縁の地ならんとて、遂に当山に安置せり、よりて山を真大と号し、地を大相模

と称し、且其不動坊又不動院といひ、僧俗（僧侶と俗人）の尊崇斜ならず、

天正十八年（一五九〇）、東照宮（家康）御入国あり、大聖寺の住侶（住職）定伝

といへるもの高德たるにより、御帰依浅からず、同き（天正）十九年、寺領六十石を賜

はり、慶長五年（一六〇〇）下野小山御帰陣の砌、当地へ渡御（お出まし）あり、関ヶ原御陣の御願を懸られ、御太刀を納させ賜ひしが、御利運（よいめぐりあわせ）の日に当り、著しき靈験ありければ、是より世の人弥崇敬し、毎年正・五・九月（の三回ごと）には会式（法会）を興行すと見えたり、此余さまざまの事を書綴れど、妄誕（根拠のない内容）に亘れば取らず（その他の様々な事をここでは採用しない）、本尊良弁の作は一尺七寸許の立像なる由、秘仏として人に示さず、前に智証（大師円珍）の刻める一尺三寸の立像を安置（安置する）、

※不動堂は、現在の大聖寺の本堂より少し北側奥にあったと思われる。

仁王門 門外に寛保四年（一七四四）の制札（立て札）を立り、

※阿吽の仁王像を両側に安置した現在の惣門

二天門 持国・毘沙門の二像を安ず（安置する）、

※不動堂（現在の本堂）と仁王門（現在の惣門）の間にあった門、明治二十二年の十月九日の門前町内の山崎屋で出火し、周辺十七軒を焼き尽くすとともに、飛び火が二天門に移り焼失した。なお明治二十八年七月には不動堂から出火し、仁王門を残してほぼ全焼した。

裏門 真大山の額をかゝ（掲）ぐ、

経堂

鐘楼 明和三年（一七六六）鑄造の鐘をか（懸）く、

東照宮御宮 昔は御太刀を御神体とせしが、延宝六年（一六七八）御木像を安置し奉ると云、其時、記せしものあり、左の如、

奉建立

東照権現宮 一字

東照権現御在世日、寄高駕於大聖密寺、寺領六十石御寄附、是其由緒也、
依之小僧晨夕欲奉安置尊容、無衣鉢之可捨因循、至于今幸予領御祈禱所、
且今年征夷大將軍右大臣源家綱公、有御子孫繁昌之御願、以為奉令終御願如左、
延宝六戊午年六月十七日

願主

知足院第十五世法印尊如

別当

大聖寺第九世法印 觀如

天神社
てんじん

愛宕社
あたご

弁天社
べんてん

秋葉社
あきは

太子堂
たいし

地藏堂
じぞう

※現在の 大聖寺の北西隣の「地藏堂」墓地であろう。

別当大聖寺 べつどうだいしょうじ 新義真言宗、京都醍醐三宝院の末、真大山と号す、開山僧不動坊、中興 ちゆうこう

開基定伝、後、柿木村東漸院に隠棲せりと、共に寂年をつたへず、
かいきじょうでん のち かきのきむらとうぜんいん いんせい

※大聖寺は、不動堂の別当寺である。

什宝
じゆうほう

御太刀一 前の縁起にいへる御太刀なりと云、長一尺八寸五分、白鞘なり、
おんたちひつ たちひつつ え

唐頭（「獅子頭」のことか）一 村民某納めし所なれども、其来由
からがしら ししがしら ひつとつ なたがし

詳ならず、
しほらひ

塔頭 たつちゆう

利生院 りしよういん 本尊十一面観音を安ず（安置する）、

※現在の相模町六丁目の十一面観音堂あたりにあった。

道照庵 どうしようあん 今廃す、

○安養院 あんよういん 大悲山と号す、本尊大日なり、

天神社 三峯社

※安養院は、西方の十一面観音堂の裏側北方の地の一帯にあった。

○福寿院 ふくじゆういん 本尊阿弥陀、 稻荷社

※福寿院は、藤塚バス停の北方にある墓地あたりにあった。

○正福院 しょうふくいん 本尊薬師、以上の三寺は大聖寺の末なりと云、

○知性院 ちしよういん 大聖寺の門徒なり、本尊は阿弥陀、 八幡社

※知性院は、日枝神社の西方、相模町六―四六三の石垣家（屋号が「知性院」）あたりにあった。

○金剛寺 こんごうじ 同宗（新義真言宗）、瓦曾根村照蓮院末、本尊大日なり、 稻荷社

※相模町六―四九四の岸野家の南西角地にある地藏堂の北側一帯にあった（現地の聞き取り調査）。

○大徳寺 だいたくじ 同宗（新義真言宗）、末田村金剛院門徒、本尊は阿弥陀、

※相模一丁目一九一の丸喜酒店の北西の墓地あたりにあった。

○不動堂 ふどうどう 大聖寺の持、

※不動堂は、現在の大聖寺の本堂より少し北側奥にあった。

○閻魔堂 えんまどう 村民の持、下二堂（観音堂、勢至堂）同じ、

※西方山野の閻魔堂は、八条用水に架かる閻魔堂橋の南東にある。

○観音堂 かんのんどう

※西方番場の観音堂は、相模町六丁目の番場自治会館あたりである。

○勢至堂 せいしどう

○東方村

つけたりもちぞえしんでん
附持添新田

※八条領に属する。

東方村は、郷名及び用水、江戸の行程等、前村（西方村）に同じ、古は当村及び西方・見田方三村合せて大相模郷と云、其内、当村は東の方にあるをもて、かく名付、と云事は西方村に弁ず（西方村で「西に当れる」と説明したことと同じの趣旨）、民家八十五、南は麦塚村、西は西方村、東は見田方村、北は元荒川を限り、（対岸は）増林村なり、東西七町、南北二十五町、細長き村なり、正保の頃（一六四四〜四七）は小野久内知行にて、後、設楽勘左衛門にか（替）へ賜ひ、又元禄十一年（一六九八）阿部豊後守に賜はり、今子孫鉄丸が領分なり、慶長十七年（一六一二）検地あり、後寛永四年（一六二七）新井十兵衛・成瀬権左衛門等糾せり（改め直す）、外に明和三年（一七六六）辻源五郎が検（検地）せし持添の新田あり、こゝは御代官所なり、

高札場 こうさつば

西の方にあり、

小名 こな

山谷村 さんや

元禄国図には、東方村の内山谷村と書し、別に載せられたれど、今は全く

小名にて、別に一区をなせしものにはあらず、

※現在の川柳地区にある「上谷」の地域がかつての山谷村である。

もとあらかわ
元荒川

北の方を流る、川幅二十五間ばかり、

ひさいずしや
久伊豆社

村の鎮守、安楽院の持、末社 稻荷 天神

せんげんしや
○浅間社 村民の持、下三社（神明社・稻荷社二宇）同じ、

※東埼玉道路の東方、大成町八丁目の東西の土手道から元荒川水管橋に向けて下っている道路の五十メートル先西側沿いにあった（現地の聞き取り調査）。

しんめいしや
○神明社 末社 稻荷 疱瘡神

いなりしや
○稻荷社二宇

安楽院

新義真言宗、西方村大聖寺末、山号本寺に同じ（「真大山」と云、所以を知らず、

下の二寺（薬王院・観音寺）同じ（山号「真大山」、本尊は阿弥陀なり、

ひがしかた
※東方村の南馬場自治会館より北方八十メートル先に安楽院の墓地の名残がある。安楽院の本堂は、それより北西五十メートル先にあった。

やくおう
○薬王院 同（大聖寺）末、本尊薬師、

※南馬場自治会館（現・「薬師堂」）より西北西百メートル先にあった。その南側一帯が境内地であろう。

かんのんじ
○観音寺 同（大聖寺）末、本尊観音、

※大相模小学校入口バス停の北方にある観音寺。

ぎよくぞういん
○玉蔵院 是も同（大聖寺）末にて開玉山弥陀寺と云、本尊は阿弥陀、

※大相模小学校入口バス停の南方にある墓地が跡地である。

ふもんいん
○普門院 同宗（新義真言宗）、柿木村東漸寺末、光明山不動坊蓮華寺と称す、
本尊不動、

あみだどう
○阿弥陀堂 村民の持、下（地藏堂）同じ、

○地蔵堂 じぞうどう

※大相模小学校の南西の隣にある「地蔵堂」墓地あたりであろう。

○十王堂 じゅうおうどう 安楽院の持、もち

※南馬場自治会館前の墓地は、十王堂の墓地跡である。十王堂の本堂は、こゝより北北西五十五m先にあつた十王堂の集会所（現在空地）の地であろう。

○阿弥陀堂 あみだどう 玉蔵院の持、もち

※平成二十八年二月十五日に行つた大成町一丁目二一四〇の高島清氏からの聞き取り調査により東方村内の廃寺の現在の所在地が判明したことを感謝を込めてここに記る。

○見田方村 みたかた

※八条領に属する。

見田方村は古当村及び西方・東方三村合せて大相模郷と唱ふ、因て今も此郷名を被ると云事は西方村に弁ず、江戸よりの行程六里、民家五十九、東は南百村、西は東方村、南は麦塚村、北は元荒川を隔て、増森村に界へり、東西七町、南北九町余、当所も阿部鉄丸が領分にて、寛永四年（一六二七）稻生清兵衛・小河加右衛門検地せり、

※「小河」の読みは「おがわ」か「おごう」か。

高札場 こうさつば 南の方によりてあり、かた

元荒川 もとあらかわ 北の方を流る、当領（八条領）と新方領の界なり、幅は二十五間許、川にそひて

堤あり、つつみ

天王社 てんのうしや 村の鎮守なり、来福寺の持、末社 稻荷 天神

※現在、地元では「八坂神社」と呼んでいる。

浄音寺 じょうおんじ 浄土宗、京都智恩院末、解脱山保鏡院と称す、元は西方山蓮華院浄香寺と云、天正

十九年（一五九一）より寺領十石を賜ふ、開山解脱阿存保、文禄三年十月十五日示寂、

開基は宇田長左衛門と云、法諡（諡）卒年（死亡年）を失ふ、されど伝燈総系譜、存保は、武州足立郡人姓宇田氏、浄音寺開山たるよしを（電燈総系譜に）の（載す、因て思ふに長左衛門は、存保の一族にて、力を合せ当寺を建立せしなるべし、又、名主圭蔵も宇田氏なれば、是等の子孫なるべけれど、其詳なることを伝へず、本尊は阿弥陀を安ぜり（安置する）、

鐘楼 近年の鑄造なり、

八幡社

○東陽寺（「東福寺」の誤りか） 前寺（浄音寺）の末、本尊阿弥陀、

※見田方飯島の「東福寺」の誤りか。現在の吉川県道の大成町交差点の南東角にある東福会館あたりである。

○来福寺 新義真言宗、末田村金剛院門徒、雷電山と号す、本尊虚空蔵なり、

※八坂神社の北東にある墓地あたりが来福寺の跡地である（現地聞き取り）。

○薬師堂 村民の持、下（観音堂）同じ、

○観音堂

※大相模交番の西方、吉川県道沿いの斉藤商店自動車整備工場の道路反対側から奥に入った所にある。ここが観音堂の地であろう。

○千匹村（千疋村）

※八条領に属する。

千匹村は江戸への里数（六里）及び時の領主（阿部豊後守、子孫鉄丸）等すべて前村（柿木村）と同じ、民家五十五、南は柿木村、北は別府村、西は四条村、東は古利根川（現・中川）を

隔て、葛飾郡木売村なり、用水は本川俣村より引来れり、検地は寛永四年（一六二七）村松

忠兵衛糺せり（改め直す）、

※本川俣は、利根川右岸の村で、現在の羽生市に属する。万治三年（一六六〇）にここに
に塚（いり）を設け、幸手領用水として利根川の水を取水した。後に上川俣に塚を増設
し葛西用水となる。このあたりは利根川からくる水によって恩恵を受けている。

高札場

古利根川 東の方を流る、幅は四十間許、

稻荷社

村の鎮守なり、柿木村萬福寺の持、

天神社

※現在の伊奈理神社。

○水神社 真光寺の持、

東養寺

新義真言宗、別府村慈眼寺（現・金剛寺）の末、利劔山と号す、本尊阿弥陀、

氷川社

※東養寺は、千足南農村センターあたりにあった。

※氷川社は、平方東京線沿い西側にある立沢精米酒店の北東、道路反対側の
道路と並行に南向の氷川社と南に伸びる参道があった。現在は駐車場と
なっている。

○真光寺 前と同（慈眼寺）末、本尊不動、

※稻荷社より真北八十メートルあたりに真光寺があった。

『八潮市史 史料編 近世Ⅱ』の付図の絵図より位置と寺名が判明。

○別府村

※八条領に属する。

別府村も領主の姓名（阿部豊後守、子孫鉄丸）江戸の里数（六里）等前村（柿木村・千匹村）
と異ならず、民家九軒、東西三町、南北二町程の小村なり、南は千匹村、西北は四条村、

東は古利根川を界ひ、対岸は葛飾郡保村なり、こゝも寛永四年（一六二七）新井平左衛門
検地せり、

高札場

古利根川 東の方にあり、幅は四十間ほど、

久伊豆社 村の鎮守とす、慈眼寺（現・金剛寺）持なり、

※東町三―四―一の飯島家の東側の七・八メートル先の土手道の内側にあつた。
現在は千足の稻荷神社に合祀されている。

慈眼寺 新義真言宗、下総国葛飾郡名都借村清瀧院末、稻荷山観音院実蔵坊と云ふ、開山

善幸、天文十八年（一五四九）八月十五日、示寂す、本尊は正観音を安置せり、
稻荷社

※慈眼寺（現・金剛寺）の本寺の「清瀧院」は、地元では以前から「せいりゆう
いん」と呼ばれてきたが、江戸時代は本来の読み方である「せいらういん」と
呼ばれたのであろう。

○四条村

※八条領に属する。

四条村は江戸よりの里数六里、用水及時の領主等前村に異ならず、民家三十二、南は
別府村、西北は南百・見田方の二村にて、東は古利根川を隔て、葛飾郡平沼村なり、爰も
寛永四年（一六二七）鈴木三太夫・井出伝左衛門等検地せり、

高札場

古利根川 村の東を流る、幅は四十間許、川に傍て堤あり、

山王社さんのうしや

村の鎮守ちんじゆ、妙音院みょうおんいんの持もち、下の四社した（天神社・稻荷社・弁天社・水神社）、持同じもち（妙音院）、末社 稻荷

※江戸時代は、現在の吉越橋よしこしの南側、かつての土手道に沿った河川敷の地であった。その後、大正年間に天満宮のある地（吉越橋陸橋の下）に、さらに現在の四条本田自治会館の南側に天満宮と合祀して移されている。

○天神社てんじんしや

※現在の四条本田自治会館の南側に山王社と合祀して祀られている。
元は、吉越橋陸橋の真下、石川商事の北東にあった。

○稻荷社いなりしや

※四条新田のコミュニティーセンターの南側にある。

○弁天社べんてんしや

○水神社すいじんしや

妙音院みょうおんいん

新義真言宗、別府村慈眼寺末、猿青山観音寺と号す、本尊正観音しやう、

※妙音院は、四条本田集落農村センターの墓地及び、四条幹線排水路の右岸一帯にかけてあった。

○太子堂たいしどう

聖徳太子の自作を腹籠りとす、頭計ぼかりにて体はなしと云いう（太子像の胎内に太子の頭が胎内仏として納められている）、靈験れいげん著しく先年故ありて足立郡

千住宿せんじゆじゆくへ移せしに、当村（四条村）及び彼村（千住宿）の者多く病災びやうさいに罹りし

ゆへ、靈意れいいに適かなわはざるならんとて元もとの如く当村へ復せりといへり、村民の持もちなり、

※太子堂は、現在は別府の金剛寺の境内に移されている。

○阿弥陀堂あみだどう 妙音院の持もち、

○南百村 なんどむら

※八条領に属する。

南百村も領主及用水、江戸への行程すべて前村ぜんそん（四条村しじょうむら）に同じ、民家二十九、西は見

田方村たかた、南は四条村しじょう、北は元荒川を隔て、中島村なかじま、東は古利根川（現・中川）を越こえて葛飾郡

平沼村ひらぬまなり、東西四町、南北九町、前村ぜんそんと同く寛永四年（一六二七）浅賀新左衛門検地あさがしんざえもんす、

高札場 こうさつば

元荒川 もとあらかわ 北の方かたを流る、川幅二十間、

○古利根川 ふるとねがわ 東の方かたを流る、幅は四十間許ばかり、川に傍そいて堤つつみあり、

水神社 すいじんしゃ 村の鎮守ちんじゆなり、宝性院持ほうしやういんもち、下二社（第六天社、天神社）持もち同じ（宝性院）、

※元は、中島橋の東方七十メートル、吉川県道に面した地にあつたが、平成十七年に東町二一六六の浅見家の西側の道路隔てた地に移転されている。

○第六天社 だいろくてんしゃ

※東町二丁目の一二〇番地にある。地元では「手間天大六天」と呼んでいる。

○天神社 てんじんしゃ

宝性院 ほうしやういん 新義真言宗、別府村慈眼寺末べつぷ じげんじまつ、珠光山しゆこうさんと号す、本尊大目だいにち、

※宝性院は、越谷駅行のバス停そばにある墓地あたりに江戸時代にあつた。

○長運寺 ちやううんじ 同（慈眼寺）末まつ、本尊不動なり、

※吉川駅行のバス停より真南七〇メートル先の地点に江戸時代にあつた。